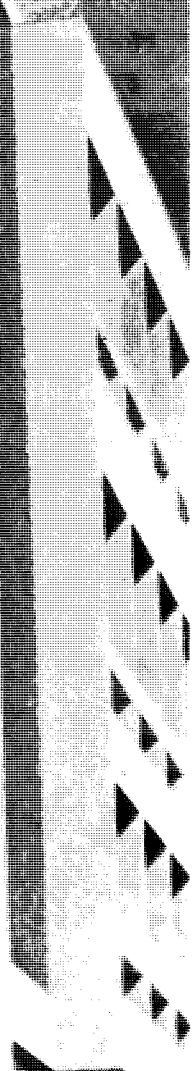
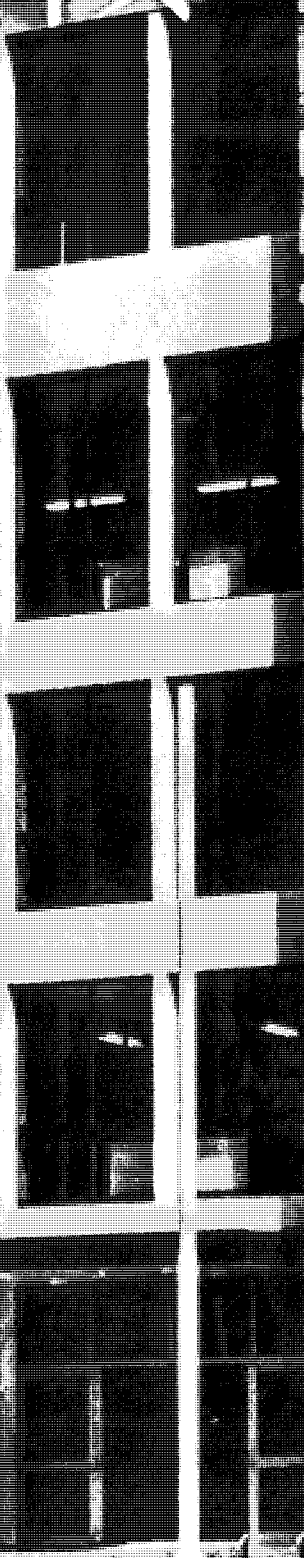


日本大学工科校友会

# 桜工



1967

49



### 若きエンジニア



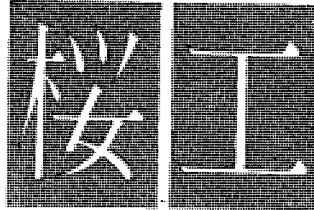
堀内敬三 作詞作曲

- 1 昭渙の日出づる国こそわが祖国  
其の名をば担いて聳ゆわが母校  
伸びゆく日本の力は茲に  
地を拓き行く者若きエンジニア
- 2 青春に夢あり宇宙に真理あり  
現実と理想を結ぶもの我等  
科学の力と不屈の意志を  
武器として進まん若きエンジニア

### 日本大学の目的

#### および使命

1. 日本大学は、日本精神にもとづき、道統をたつとび、憲章にしたがい、自主創造の気風をやしない、文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。
2. 日本大学は、広く世界に知識をもとめて、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。



日本大学  
工科校友会誌  
1967  
VoL. 14  
No. 49

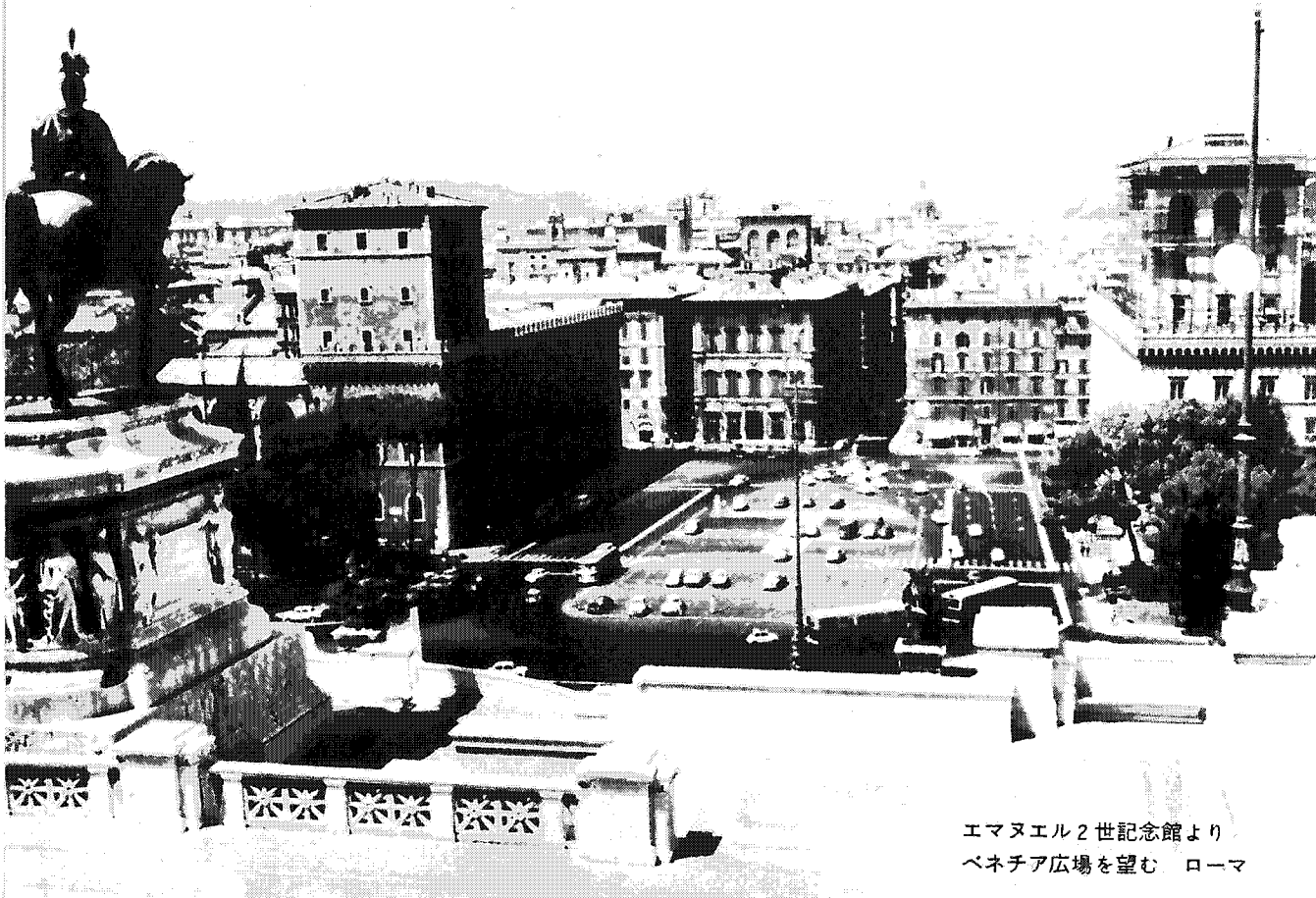
■ 弔辞／古田会頭	5
■ 横地先生を敬う／永田菊四郎	7
■ 座談会 ヨーロッパあれこれ	8
矢代秀雄，小林美夫，森田嘉夫，尾形亨， 勝田高之，丸山孝平，小野浩伸，古橋秀夫 （司会）市川清志	
早朝，コロッセオを歩く／「野ウサギとシカ に注意！」／エッフェル塔の下での遐想／近 代建築の裏と表／やはり本場のスパゲティ／ ケルンのショッピング街／地下道を歩かな ければ違反／南下するほど泥棒が多い？／ 土産の香水が全部蒸発／英語を使うとバカに される／地図は大いに利用すべし／着替えは 少ない方がよい／簡易エレベーターが普及／ 風呂の水が部屋に浸入／注意されてトイレで 喫煙／車を買うよりヨーロッパへ	
■ 韓国の今昔と校友の発展	17
八木国太郎	
■ 志賀高原での生薬研究合宿日記	24
船津 留女	
■ 沖縄紀行	26
理工学部ワンダーフォーゲル部	
■ 部会だより	
土木・建築 (31) 機械・化学 (32) 薬学・工経 (33)	
■ 本会記事 (34) ■ 校友会委員会名簿 (34)	
■ 会合だより 専士6回生卒業30周年記念クラス 会 (34)	
■ 学友短信 (35)	
■ グラビア 故横地伊三郎学長大学葬 建築科海外研修旅行スナップ	
■ 表紙 工学部記念研修図書館	

# 建築科

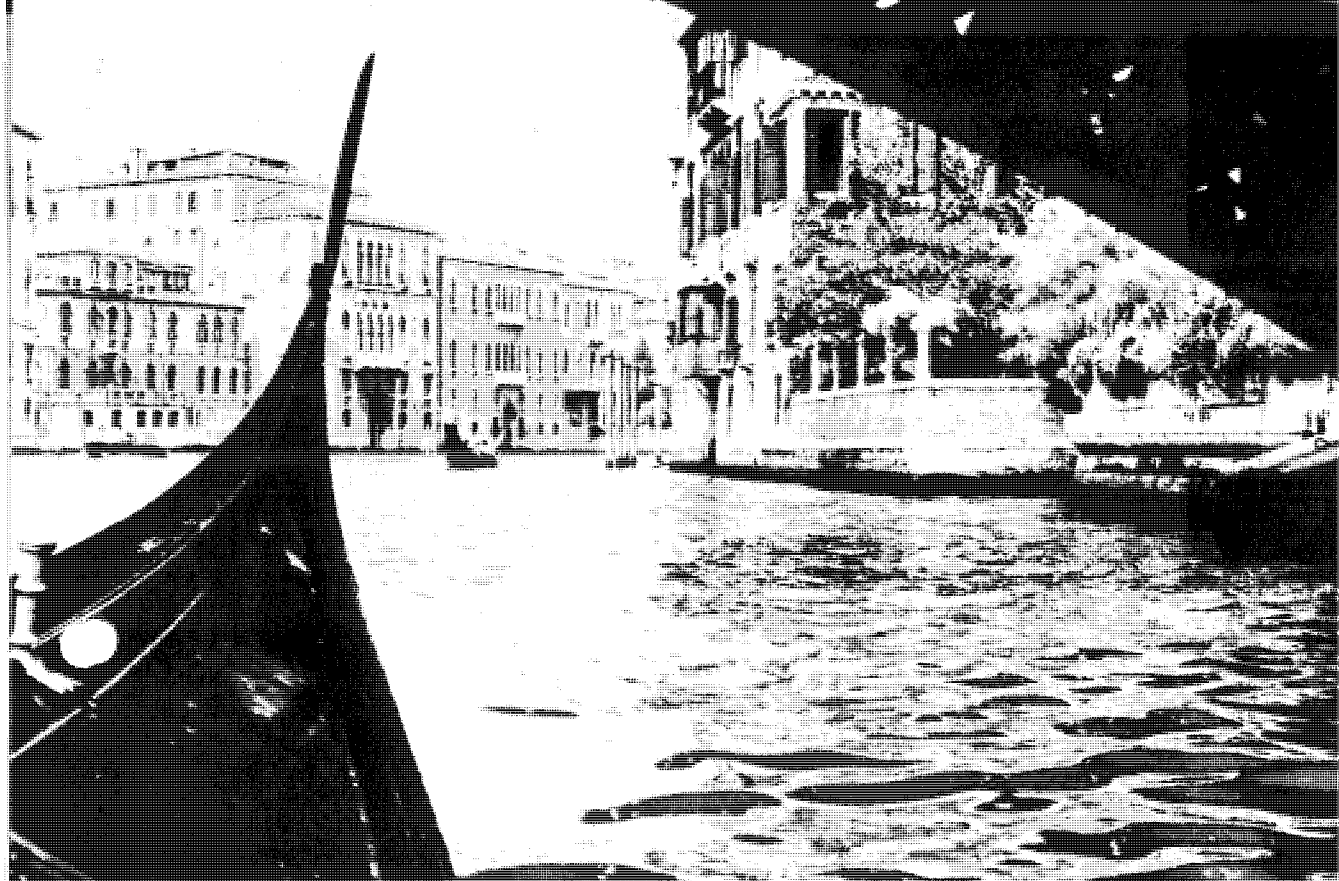
## 海外研修旅行スナップ集

今夏、理工学部建築学科、経営工学科建築専攻並に生産工学部建築学科は、夏季休暇を利用して第1回の海外研修旅行を試みた。

海外旅行のブームではあるが、本文掲載の座談会から窺える通り、建築家の卵として案外真面目な学生らしい若さに満ちた観察ぶりである。其の一行が撮りまくった数々の写真の一部をお目につけ報告の一端とする。



エマヌエレ2世記念館より  
ベネチア広場を望む ローマ



ヴェネツィア（ヴェニス）  
イタリア北西部ヴェネツィア湾に臨む美しい水の都



英京ロンドンのとある地下鉄入口



専工土木6回生卒業30周年クラス会

クラス会は幹事の準備も万全で、遠く九州、四国、中国と全国より20名が参加して、大成功であった。参加者は当山先生を囲み、中山幹事長のあいさつ、経過報告、クラス学友33名の賛同による記念品目録を宮田幹事より恩師に贈呈、物故者への黙とう、その他型どおりに進行し、各人の自己紹介にうつる頃には、顔立ち、頭髪には30年の年輪がうかがわれても、いつしか心は学窓時代にもどり、各自過去をとおして現在をかたり、家庭状況も披露しあった。

先生は終始なごやかに、うなづいて思いだしていただく頃は、会も最高潮に達し、「若きエンジニア」を合唱し、各部屋に帰っても、夜明け近くまで思い出ばなしがつきなかった。翌日10時、3年後の大阪での再会を約して、名残りを惜しみつつ散会した。当日の出席者は有富文寛、石川宏一、一重友喜、上野清治郎、大野雅次郎、川口正雄、佐藤信正、島田深、清水守一、中山隆、西章、長谷川正貫、土生元彦、藤田典二、本庄卓、母良田順治、増永金次郎、牧村光輝、宮田勇、鴨志田芳保の諸君。

## 学友短信



■会誌委員／委員長名取康(化学)／土木・下青木秀吉(副委員長)、篠本勝美／建算・安葉三郎、井出好昭／機械・青木顕一郎・両角豊志／電気・篠原博(副委員長)、高橋信夫／化学・大塚喜作、黒沢喜久雄／工経・三浦智徳／薬学・山内盛、戸塚淳逸

■昭和42年11月1日印刷／10日発行

■編集兼発行人／高木政司

■発行／日本大学工友会(東京都千代田区神田駿河台1の8／電話東京293—3251内線206／振替・東京162710)

■印刷／本文・鉄鋼新聞社印刷部、グラビア・和喜グラビア